

NARO Research Prize 2013

ピーマンモザイク病を予防する生物農薬 「弱毒ウイルス L3-163株」

津田新哉

(中央農業総合研究センター 病害虫研究領域)

研究の目的・背景等

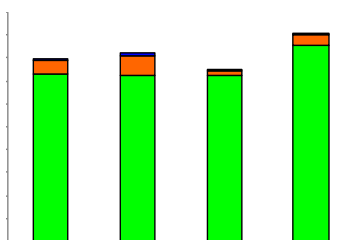
ピーマン・トウガラシ類に発生するモザイク病は、これまで、土壌くん蒸剤臭化メチルで予防してきたが2012年末日で全廃された。そこで、民間企業および地方自治体との共同研究により、モザイク病予防の特効薬として、生物農薬「弱毒ウイルス L3-163株」を開発した。

研究の概要

「弱毒ウイルス L3-163株」は強毒ウイルスの感染に対し高い干渉効果を発揮する。一方、ピーマン農家圃場で生産性評価を行った結果、弱毒ウイルス接種株と無処理(健全)株との間で収穫量に有意な差は認められない(図1)。なお、この弱毒ウイルスは、2012年10月24日に植物ウイルスワクチン「グリーンペパーPM」として生物農薬登録されている(写真1、第23136号 殺菌剤)。



津田新哉



ピーマンと健全ピーマン果実の等級別出荷量比較。茨城県神栖市。収穫は半促成栽培:2009年3~6月。抑制栽培:8~12月。反復測定分散分析により、収量と品質において弱毒処理の有無で有意差なし ($p>0.05$)。



写真1. 植物ウイルスワクチン「グリーンペパーPM」として農薬登録した弱毒ウイルス L3-163 株の製剤 (試作品)

 **農研機構**
NARO 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

